



9月以降、学校が重点を置き取り組むこと

校長 野村 洋介

7月20日から始まった夏休みが終わり、子どもたちが学校に戻ってきました。夏休みの間、校舎はシーンと静まり返っていました。子どもたちが登校し、子どもたちの明るい声が校舎内に響き渡ると学校になったなと感じました。学校は、子どもがいてこそ学校であり、その子どもたちを大切に育てていくことの大切さを改めて感じました。

9月が始まり、これから運動会や音楽会等の大きな行事があります。友達と協力して取り組むことを学ぶ良い機会となります。学校教育の大きな目標に、将来、社会に出て自立して生きていくことのできる人の育成があります。人間は、一人では生きていけません。必ず、人と関わりながら生きていきます。どのように人と関われば、良い人間関係を築くことができるかを学ぶことも、学習と同様に子どもたちにとって必要なことです。勉強ができて、人と良い関係を築くことができなければ孤立していく可能性があります。運動会や音楽会は、友達と協力して1つのものを作り上げていきます。子どもたち一人一人が集団に所属し、集団の一員として認められている満足感や充実感、連帯感をもち、互いに協力する中で自己有用感を高めるようにしていきます。

4月から学校では、「きまりを守ること」「人に優しくすること」この2つを指導の重点に置き、取り組んできました。

きまりを守ることのできない人は、人に迷惑をかけ、人が離れて行きます。結果、寂しい生活をしなければいけなくなります。授業中、勝手な発言をしたり、立ち歩いたりすることは、授業中のきまりを守っていないこととなります。そして、一生懸命に学習しようとする人の迷惑になります。クロムブックで学校が許可していないアプリを使用したり、サイトを見たりすることもきまりを守っていないこととなります。大人になってきまりを破ると、それは犯罪となり、逮捕されることもあります。子どもの頃からきまりを守ろうとする意識を育てることは、子どもたちが大人になってからも犯罪等に巻き込まれないために必要なことです。学校は、きまりを破ったからといって大人の社会のように罰を与えることはできません。きまりを守ることの必要性を子どもたちに言い続けることしかできません。学校だけが言い続けても、教育的効果はそれほど高くはありません。保護者の方も、お子様に言い続けていただいて教育的効果は高まります。子どもたちが大人になっても困らないために、ぜひご家庭でも「きまりを守ること」の必要性を話してください。

特に授業中の態度について、他の友達の迷惑になる行為はしないよう話してください。学校は、落ち着いた教育環境を作り、将来、社会に出て必要な基礎的な知識・技能を子どもたち一人一人に身に付けさせたいと思い、日々授業しています。授業の妨げになる行為をし、教員が注意をすることにより、他の子どもたちの学習時間を奪うことは決して許されることではありません。子どもたち一人一人が、落ち着いた環境で学習できるよう、授業中の態度について、ご家庭でもお子様に伝えてください。

起こった問題に適切に対処をすることも大切ですが、問題が起こる前に大切なことを伝え続けることが必要であると思います。